

乳腺外科トピックス 2017年12月

今年も早いものであと1か月あまりとなりました。今年を振り返ってみれば、

1) 10月から乳腺ドックを始めました。詳しくは、「ようこそ乳腺ドックへ」(末尾に添付)をごらんください。当院の乳腺ドックは、マンモグラフィをまず撮影、その読影結果を見ながら乳腺エコーを行い、総合判定をしております。これは日本乳癌検診学会による総合判定ガイドラインに則った方法です。今後、40代の乳がん検診がマンモグラフィとエコーの併用が変わっていくと思われませんが、そのための準備を各病院で行っていくようにとの学会の方針に沿ったものであります。

2) 今年も、乳がん検診啓蒙企画を行いました。

① 7月22日(土)・西脇病院：西脇病院フェスタ「乳がん検診に行こう」第4回目になりました。今年も視触診モデルに関心を持っていただき、100人以上の方々にお越しいただきました。また、昨年に引き続いてバザーもさせていただき、1万円を超える活動費をいただきました。合わせて厚くお礼申し上げます。



入り口にはおなじみの視触診モデル

② 10月15日(日)・西脇市マナビータプラザ：「歩こう会」第3回になりました。今年はお雨の中でしたが、約30名が参加されました。西脇病院の理学療法士による頭も一緒に使った体操などで身体が軽くなったと好評、栄養士さんは自販機で売っている清涼飲料水に多量に砂糖が含まれていることを見せてくださいました。西脇市と多可町の健康課のみなさんには、がん検診に関するクイズをしていただきました。もちろん、藤田医師会長のダイエット体験談にもみなさん聞き入っておられました。来年は多可町で行う予定にしています。



藤田先生のお話



肥満と乳がん



がん検診クイズ



栄養士さんの話



恒例のラジオ体操



理学療法士さんご指導の頭と身体の体操

- ③ 11月25日(土)・西脇市みらいえ：「にしわき乳がん市民公開講座」第5回となりました。今年は、前半と後半に分け、前半は乳がん検診について～特に高濃度乳腺と遺伝性乳癌について～、および西脇市健康課によるがん検診関連クイズをしていただきま

した。クイズには、後半のお話につながる大腸がんも取り上げていただき、とてもよかったです。後半は、鈴木内科医院院長 鈴木琢真先生に「大腸がんにより苦しむ人を減らすために」と題してご講演をいただきました。わかりやすい話であったと好評でした。また、今回初めて別のがん種からのテーマとなったためか、事前申し込みの方も多く、男性も何人か参加いただき、約50名が参加されました。来年はマナビータプラザを予定しています。来年は第3のがん種（アンケートによりますと、肺がんの話が聞きたいとのお声が複数ありました）、を選ぼうと考えています。



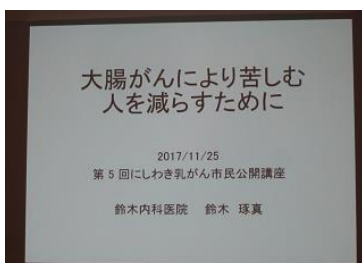
片山市長も乳がん検診に関心を持ってくださっています。



藤井議員も。お二人ともフェスタ企画にも来られました。



がん検診クイズ アンコール編



鈴木先生のお話

- ④ 今年から、ライオンズクラブのご寄付で、10月のピンクリボン月間に病院ロータリーがライトアップされることになりました。



3) 今年も、国内外で学会発表そのほかを行ってきました。

学会発表は筆頭著者のものだけで3つ、講演等は5つ。それに、日本の乳腺診療の第一人者の集まる会議に2回、出席してきました。今や、乳腺診療の最善を尽くすためには、院内の他部署多職種のチーム医療のみでは不十分で、院外にも協力体制を持つことが必須となってきています。

4) 乳腺診療と関係する、興味深い論文が Lancet その他に発表されています。次号からぼつぼつ紹介していきます。

末筆になりましたが、啓蒙企画にご協力くださった西脇市多可郡医師会、西脇市健康課、多可町健康課、会場でお世話になったマナビータプラザとみらいえのみなさま、そして乳腺外科診療を支えてくださる病院スタッフのみなさま、有難うございました。そしてはなみずきの会のみなさん、お疲れ様でした、これからもゆるゆる活動していきましょう！来年もよろしく願いいたします。

乳腺ドックへようこそ



日本人女性の生涯の乳がんの罹患は、11人に1人まで増えました。半面、日本人の乳がん検診受診率は欧米の半分以下と依然として低い現状です。乳がんの早期発見・早期治療、そして乳がんによる死亡者数減少のためには、乳がん検診の受診率のみでなく、検診の質を上げていく努力が不可欠です。

日本人を含めアジア人は、欧米人と比べて乳腺組織が厚く、マンモグラフィで高濃度乳腺となる方が少なくありません。また、日本人の乳がん好発年齢は40～50代と、欧米と比べて若年です。すなわち、40代の方にとっては、現行の「マンモグラフィ+視触診」のみでは、早期発見が困難な場合があります。そこで、40代女性を対象に、マンモグラフィにエコー検査を併用することの意義を調べる大規模臨床試験（J-START）が日本で行われました。その結果、40代女性に対しては、マンモグラフィにエコー検査を併用することで、より多く、より早期に乳がんを発見できることが証明されました。しかし、生検率が少し高くなり、精度管理が今後の課題となりました。不要な生検を減らすため、日本乳癌検診学会では、マンモグラフィとエコー検査結果の総合判定指針を作り、総合判定講習会が開催されています。また、高濃度乳腺への対応策として、最近トモシンセシスが注目されています。トモシンセシスも乳房を圧迫して撮影しますが、マンモグラフィと異なり、断層画像が得られることが特徴で、乳腺組織の重なるの少ない画像が得られ、被ばくは一般のマンモグラフィと同程度です。

当院では、これらの背景から、日本乳癌検診学会の推奨する総合判定マニュアルに則って、マンモグラフィとエコー検査の併用検診を2017年10月より開始いたしました。

当院の乳がん検診は、視触診、画像検査をすべて女性スタッフが担当しており、かつ、医師・技師ともに、エコー検査・マンモグラフィ検査の乳がん検診読影資格を有しております。加えて読影医は、上述の総合判定講習会を修了しております。質の高い乳がん検診を、気軽に受けていただけます。

乳房の健康のために、当院の乳腺ドックが少しでもお役に立てば幸いです。

2017年10月 乳腺外科部長 三輪教子